

個人グループのオフラインMTでの色々な言動や、今までの色々なことにより、急遽陽子さんに「打ち返し」勉強会を開催してもらった。

今回は、まずはどういうことが「打ち返し」となっているのかを事例を交えて把握することが目的だった。

まず最初の指摘は、
「必ず受け手ファースト」
ということ。

受けた側が思えば「打ち返し」になり、発言者の真意は関係なく、たとえ正しくても伝わらなければ意味がないということ。

私は主に「否定」や相手の真意を確認せずに返答することを「打ち返し」と考えていたけれど、そうではなく、根底にあるものは「相手に伝わっているかどうか」だった。

思っていることをぽんぽんと返したり、相手の真意を確認せず条件反射で返してしまい、相手に伝えることよりも「返事」をすることが主となってしまっている。

これでは相手に伝わらないし、伝えようともしていないな、と気がついた。

また、上記にも通じることだけれども、会話のキャッチボールを想定していない会話が多い、ということも指摘された。

お互いに自分の話だけをしていたり、返答に困るような発言をしていたり……総合的に「マイナス」方向に感じるものが多いことは、自分でも感じていた。

相手にしてみれば、そういった発言の端々に「歓迎されていない」「受け止めてもらっていない」「楽しさを感じない」「受け身にしか思えない」と感じるのだと思う。

私はマイナスに受け止められそうな「言葉」は意識していたけれど、「内容」自体はほとんど気にしていなかった。

明らかにわかるマイナス言葉以外にも相手にとって「マイナス」に思える言葉があり、そう言ったことは本当に気にしていなかった。

たぶん、みんな私と話して楽しい気分になることなかっただろうな、と相手に悪いと思いつつも自分はそういう会話しかできていない人間ということに悲しくもなった。

自分の問題はわかったので、枝葉の部分を意識するのではなく、キャッチボールを意識して根底にある

「相手に伝えたいことを伝えるように話す」

にまずはトライしようと思う。

(40代女性 栃木県)